スポットライト
～地域で頑張る人たち～
No.7

多くの人に聴いてもらいたい 弦楽器で奏でる音楽を

アンサンブル・アルカート

アンサンブル・アルカートは、バイオリン、ビオラ、チェロといった弦楽器演奏のボランティアグループです。

メンバーは現在8人で、年齢は40代～80代と様々です。平成24年11月、肝付町の指定文化財・道隆寺跡で行われた音楽会で演奏を依頼され、急きょ、「かのやオーケストラ」で弦楽器を担当する有志で演奏したのがきっかけ。演奏後の慰労会で、「これで終わりではなく、何とか続けていこう」と、メンバーの意見が一致し、発足しました。

文字通りのボランティアで、「一切、報酬・謝礼は要らず、依頼があればどこへでも演奏に行く」というのが活動のスタンス。月に3回ほど田崎地区学習センターで練習し、福祉施設をはじめ、地域や学校の行事などで、おおむね月1回のペースで演奏しており、これまで演奏は市内外で42回を数えます。

演奏曲は唱歌や童謡、歌謡曲が中心。高齢の来聴者には、昔ヒットした歌謡曲が人気で、中には演奏と一緒に歌い出す場面も見られます。

代表の竹内信好さん（81歳）はこう穏やかに語ります。「メンバーは皆、やる気がある人ばかりで、気持ちは同じ。楽しく演奏し、充足感を感じている。今後も多くの人に弦楽器による演奏を聴いてほしい。少しでもお役に立てれば、ぜひ活用してもらいたい」

平成27年10月、高齢者の保健施設である「おさしお」（吾平町麓）で行われた演奏会

平成25年から続く寿北小学校での演奏。弦楽器を身近に感じてもらおうと、演奏後には必ず児童一人ひとりに弦楽器を触れさせている

「多くの皆さんとともに、音楽の楽しみと喜びを味わっている」と語る代表の竹内さん（中央）

編集後記

女子ラグビー日本代表のヘッドコーチ有水剛志さん。ワールドカップ出場を前にして多忙な中での帰省は、鹿屋高校の同期生の企画で実現したもの。帰省中は市長訪問、激励会、ラグビーの指導、取材対応など、慌しい毎日でした。取材して感じたのは、有水さんと、有水さんを支える友人らのアツイ心でした。（前田）

『適量の材料を買って「使いキリ」→適量の料理を「食べキリ」』が望ましい姿だとしたら、料理下手で食べるのが大好きな私は、『余るほどの材料を買って「使いキリ」→余るほどの料理を「食べキリ」』の繰り返し…適切な「3キリ運動」は食べ物を大切にするだけでなく、体にもいいのかもしれません。（原田）

✂キリトリ線

お便り＆メッセージ

ご協力ありがとうございました。

ご応募の際にご記入いただきました個人情報は、抽選・賞品引換券の発送・アンケート統計以外の目的で使用することはございません。